

『 会長就任2年目、今年は... 』

私が会長に就任し2年目を迎えました。昨年は全体目標として、人手不足解消・経費削減・増収。各会員へ対する目標として、何事も面倒臭がらず積極的に物事へ取り組む事。自分自身に対する目標として、各会員への確かな指示を出し、率先して会運営にあたる。この3つを目標に掲げ、自分なりに会長として会を運営し、会員をまとめて来たつもりです。この3つの目標についての反省や達成度については、昨年12月の会報に掲載しているもので、ここでは省略させていただきます。

今年も早いもので1ヶ月が経ちました。2001年以来?の大雪という事で市には豪雪対策本部が設けられ、皆さんも連日の雪片付けで疲労困憊、道路も狭く、車もノロノロ運転の日が多々あったかと思います。当会の製作所はまるで雪に埋もれる山小屋のようです。

さて、本日1月22日は当会の定時総会開催日です。毎年、この日には会長から今年1年間の目標(所信表明?)を各会員へ向けて話すと共にこの会報紙にも掲載しなければなりません。今年に入り、昨年及び歴代会長が掲げた目標とその反省を振り返りながら今年の目標は?と日々考えていました。その結果、今年も昨年とほぼ同様の目標を掲げる事にしました。

全体目標...人手不足解消と経費削減

昨年掲げた増収については、厳しい経済状況下のため、増収は見込めないだろうという事で今年の目標には掲げない事にしました。

人手不足は制作・運行・囃子、どの部門にも言える事ですが、特に制作と運行部門を重点的に考えなければなりません。本来であれば、毎年のように新入会員が何名かずつでも入会してくれると人手不足は僅かながらにでも解消されるはずなのですが、当会発足以来、会員数は伸び悩んでいます。ここ数年、新入会員を獲得するための策が何ら見い出せていないのが原因で人手不足になっているものと考えます。また、その時だけのお手伝いの人しか集められず、その人達に対しても何ら策を講じていないのも原因の1つです。今の所、囃子部門については、囃子講習会や町内回覧板などを通じて参加者を募集したり、他団体へ協力を要請したりするなど人手は確保出来るので、あまり心配はしていません。しかし、制作や運行部門については、当会ホームページへ募集案内を掲載したり、荒川中学校を訪問し、校内掲示板に参加者募集のチラシを掲載したりしているのですが、全くと言って手応えがありません。今後更なる策を講じ、人手不足解消をしなければならないと考えています。

経費削減については簡単な事で、無駄な物は購入せず、紙・木材・針金などの無駄使いをしないという事です。物品購入については、会計担当の厳しい目があるので何とか出来そうですが、紙・木材・針金などの無駄使いについてはイマイチのような気がします。奉書紙は小さな紙片でも無駄なく使い、木材と針金は使い勝手が無くなるまで使い切り、無駄に捨てないように心掛けてほしいです。

各会員へ対する目標...何事も面倒臭がらず積極的に物事へ取り組む心ある協力

昨年は、会長である私自身が制作に消極的であった事をまず反省しなければなりません。何故、今年もほぼ同様の目標を掲げたかと言うと、今春納品予定のねぶた補修作業へ取り組む会員の姿勢が気になるからです。昨年11月から、この年に運行した担ぎねぶた2台を補修し、一人担ぎは上野松坂屋で開催される華道の展覧会へ、十人担ぎは盛岡市西部公民館の企画展へと今春納品するという事で作業を進めているのですが、会員の参加状況が思わしくありません。確かに平日は仕事が忙しくて作業に来る事が出来ないというのは分かりますが、せめて土日や祝祭日などで仕事が休みの時ぐらいは数時間でも製作所に足を向けて欲しいのです。会員の中には、この補修作業があるためにシーズンオフが無くなった事で製作所へ来る事が面倒だと感じる人やねぶた制作時期から外れているので熱(意欲)が冷めてしまった人、誰かがやってくれるだろうと思っている人もいるのではないのでしょうか。納品は今春と迫っていますし、先方からお金を頂く訳ですから、何とか皆の力で修復を終えなければなりません。また、会の運営や人手確保、外部活動など多方面にわたり、各会員の心ある協力をお願いします。

自分自身に対する目標...各会員への確かな指示を出し、率先して会運営にあたる

自分自身、会長として未熟な点が多々あるように思います。昨年は自分なりに会の運営をして来たつもりですが、自分ばかりが動きすぎ、各会員を上手く動かす事が出来なかったような気がします。今年は、各会員の才能を見極め、適材適所に会員を動かせるようにしたいと思います。また、自分自身も会長として、しっかり会運営をし、多方面との連携も図って行きたいと思います。

【記：高谷俊幸】

『 今年から製作を制作という字に改める！

～ 担ぎねぶたも芸術作品だから... ～ 』

会発足以来、当会では担ぎねぶたを作る場合には「製作」という字を使っていたが、今年から「制作」という字に統一したいと思う。何故かと言うと、昨年ある方から「担ぎねぶたも芸術作品なんだから、衣の付かない制作という字を使った方がいいよ。」という言葉を受けたからだ。「製作」とは、物品・道具・作品などを作る事。「制作」とは、芸術作品などを作る事。と辞書には書いてあった。言われてみれば、確かに担ぎねぶたは物品や道具の部類では無い。芸術作品である。ねぶた師が作るねぶたは芸術作品だと言われれば誰でも納得出来るが、我々が作る担ぎねぶたは芸術作品か？と思う人もいだろうが、自信を持って芸術作品だと言っていいだろう。という事で今年から担ぎねぶたを作る時は「制作」という字に改めようと思う。ただ、当会の製作運行委員会の製作という字については、定款なども変更しなければならないので、しばらくの間は製作という字を使うつもり。さあ、夏になったら製作所に掲げている看板も「制作所」に書き改めよう！

【記：高谷俊幸】

『 囃子は違えど我々の仲間です！

～ 名古屋市で活動する和太鼓集団「氣楽」を紹介します～ 』

実は「氣楽」とさんと当会、会同士のお付き合いはまだ始まっておらず、これから始まるのです。数年前、名古屋市に住む女性の方（Kさん）が当会のHPを見て、是非当会のねぶたに囃子方として参加したいという事から話は始まります。私の記憶では、Kさんはねぶたの囃子を知らないとかで、こちらからねぶた囃子（太鼓）の楽譜や音源などを名古屋に送り、独学でねぶた囃子を覚え、ねぶた祭本番に来青、運行前に多少太鼓を叩いて貰っただけで本番に臨んで頂きました。更には中央西公園に設置した当会の仮設ねぶた小屋に小屋番として会員と共に泊まって頂いたりもしたのです。Kさんは翌年も来青し、当会の囃子方として参加、この年は当会の製作所へ寝泊まりして頂きました。2年続けて来青して頂き、我々としても心強く思っておりました。Kさんと会話しているうちに、話の一端に彼女は名古屋市で和太鼓を叩いているような話をしていたので、後日、Kさんの名前でPCから検索すると、名古屋市で活動する和太鼓集団「氣楽」さんに行き当たりました。やはり和太鼓経験者だけにねぶた囃子の覚えも早く、バチ捌きも力強いはずだと今改めて思い返しています。

さて、いよいよ「氣楽」さんの紹介をさせていただきます。「氣楽」さんの発足は2002年4月。氣楽の前身の会の解散をきっかけに、気の合う仲間同士が集まり結成されたのが「氣楽」だそうです。発足当時10名だった会員は、現在では男性10名、女性15名の計25名、老若男女、ベテラン・新人が揃い、今では国際的（会員に外国人の方がいるって事かな？）だそうです。稽古は毎週火曜日、夕方から3～4時間行っていて、様々なイベントへの出演も増え、去年は年間17ステージをこなしたそうです。「氣楽」さんには、恵比寿太鼓・はちじょう・秩父屋台囃子太鼓・太鼓囃子・Take it easy・ぶちあわせ太鼓・清流・木遣り太鼓・じゃこっぺ・暇ばやしという10種類の曲目があるそうです。また、会独自として、年1～2回の合宿や忘新年会・ボーリング大会・演奏を聴きに行く会なども行っているそうです。

私が「氣楽」さんを紹介出来るのはここまでです。是非、当会との交流が末永く続き、更には共演できる事を願っています。詳しくは「氣楽」さんのHPをご覧ください。

【記：高谷俊幸】

和太鼓集団「氣楽」さんのHP <http://happytown.orahoo.com/taiko-kiraku/>

《 9年目を迎えた青森担ぎねぶた実行委員会

会員一同、今年も精一杯頑張ります！ 》

発行：青森担ぎねぶた実行委員会事務局広報部
編集責任者：高谷 俊幸
編集者：小笠原 広昌、佐々木 誠治、飯田 寛子
事務局住所：〒030-0131 青森市間屋町1-18-40
TEL：090-9637-5117（事務局：小笠原）
Home - Page：<http://homepage2.nifty.com/katugi>
mail：ss511022@nifty.com

《編集後記》今年の題材も間もなく決まろうとしている。昨年12月の段階で何種類かの題材案は出されたものの、あらずじや下絵が完璧な状態で出された物はまだ無い。ここ数年、私が選んだ題材ばかりが取り上げられている。今年は他の会員に題材提出をゆだね、私は何も題材を考えないつもりでいるのだが...。やはり考えなければならないだろうか？どうしようかと悩んでいる。何か1つぐらいは考えようかなぁ～。（高俊）